

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 16 日現在

機関番号：32663

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24830085

研究課題名(和文) 現代日本の宗教組織による移民支援が促す移民と地域社会との共生に関する実証的研究

研究課題名(英文) An Empirical Study on Social Support from Religious Organizations for the Multicultural Coexistence of Immigrants and Local Communities in Contemporary Japan

研究代表者

高橋 典史 (TAKAHASHI, Norihito)

東洋大学・社会学部・准教授

研究者番号：50633517

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円、(間接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、研究蓄積の乏しい現代日本のニューカマー(移民)と宗教との関係性について、各地の宗教組織による在日外国人支援に着目して考察を試みた。そして、おもに(1)リーマン・ショック後のカトリック教会による南米系住民への支援、(2)カトリック教会や立正佼成会によるインドシナ難民の支援事業、という2つのテーマについて調査を進めた。本研究ではこれらの研究テーマを通じて、各地における宗教的な動機にもとづく人道的支援が、制度のすき間に置かれた外国人への迅速かつ広範な支援として展開しただけでなく、地域の多文化共生の一端を担ってきたことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)： In this study, I explored the relationship between Newcomers (immigrants) and religious organizations in contemporary Japan, a topic on which very few studies have been conducted to date. I focused on two types of social support offered to foreign residents by religious organizations in various districts of the country: (1) Social Support from the Catholic Church for Latin American residents; and (2) Support Projects by the Catholic Church and by Rissho Kosei-Kai for Indochinese refugees. The results revealed how humanitarian aid, based on religious motivations has not only developed rapidly and widely in each district in order to bolster public support for foreign residents but also played a role in establishing multicultural coexistence in each community.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：宗教社会学 移民 ニューカマー 在日外国人 多文化共生 定住 カトリック教会 インドシナ難民

1. 研究開始当初の背景

(1) 社会的背景

2008年に発生したリーマン・ショック後の世界的な経済不況や、2011年3月11日に起こった東日本大震災とそれともなう福島原発事故の影響は少なからずあるものの、1980年代以降の日本においては、フィリピン人、「デカセギ」の南米出身の日系人のほか、アジアを中心とするさまざまな国々から到来するいわゆる「ニューカマー」が増加してきた。また、政府の政策レベルにおいても、少子高齢化ともなう深刻化する労働力不足を補うための外国人労働者の大規模な受け入れも議論されている。

(2) 学術的背景

こうした日本社会における広義の「移民」たちとの共生を模索していくうえで、彼ら/彼女らの宗教や文化への理解は不可欠になっていることは間違いない。それにもかかわらず、ニューカマーの移民たちと宗教との関わりについての研究の蓄積はごくわずかである。

(3) 本研究の着想

以上のような社会的および学術的な背景を受けて、本研究では、日本各地の外国人集住地域において移民たちが関与する宗教組織が、社会的排除にさらされがちな移民たちに対していかなる支援を行ってきたのかについて、宗教社会学の立場から解明することを着想した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、首都圏や東海圏を中心とするニューカマーの移民たちの集住地域において、カトリック教会のような既存の宗教組織が、外国人住民たちに対してどのようなサポートを展開してきたのかについて現地調査を実施し、宗教を通じた移民と地域社会との共生の可能性と課題について実証的に研究にすることであった。

3. 研究の方法

本研究では、現代日本の外国人集住地域において既存の宗教組織が外国人住民と地域社会との共生に関していかに関与してきたのかを明らかにするために、以下の3つタイプの調査を実施した。

宗教組織の調査：日本の既存の宗教組織（カトリックや新宗教教団など）における移民に対する布教や支援の概要を把握するために、文献資料調査や各組織の本部等へのインタビュー調査を実施してデータを収集した。

地域調査：首都圏・東海圏を中心にそのほか関西圏や北海道などの外国人集住地域における外国人住民の状況と、各地の宗教組織の移民たちとの関わりについて、インタビュー調査と参与観察を併用して現地調査を実

施した。

国際比較：移民社会である米国やイギリス等における移民と宗教に関する先行研究を収集・検討し、この調査から把握された諸事例との比較を行うことによって、日本における事例の特徴と課題を考察した。

4. 研究成果

(1) 1年目（初年度）

研究計画の初年度である平成24年度は、主として日本における在日外国人たちの集う宗教組織に関する基礎的データの収集を行った。とくに日本のマルチエスニックな宗教組織の代表的な存在であるカトリック教会の関連組織についての調査を重点的に実施した。北海道札幌市・小樽市、東京都内、大阪市、静岡県浜松市等に所在する多文化共生関連の組織を訪問してインタビュー調査を行い、各種資料を収集することを通じて、地域ごとの在日外国人支援の特徴を明らかにしていった。さらに移民の宗教に関わる基本文献を購入して、基礎情報の収集に努めた。こうした調査から得られたデータを、アルバイトも用いて整理・分析をすることによって、現代日本の宗教組織によるニューカマーの在日外国人支援の中核を、カトリック教会ないしその関連組織が担っているという実態を浮かび上がらせていった。

こうした調査と並行して、研究成果の公表も随時進めていった。研究代表者が主催している「宗教と社会」学会公認プロジェクトである「現代社会における移民と宗教」プロジェクトの研究会を、平成24年11月、平成25年1月の計2回開催した（地域研究コンソーシアム（JCAS）次世代ワークショップ（大阪大学 GLOCOL 国際協力・グローバル共生採択課題）との共催）。同研究会では、研究代表者のほか、本研究課題と関連する研究を進めている研究者たちが研究報告を行い、有意義な情報交換を行うことができた（研究代表者の発表題目：「現代社会における移民と宗教」研究の課題と射程）。さらに平成24年11月には、日本社会学会第85回大会においても研究報告を行った（後掲の学会発表）。

研究成果の公表に関しては、研究代表者が主催している「宗教と社会」学会公認プロジェクトである「現代社会における移民と宗教」プロジェクトの研究会を、地域研究コンソーシアム（JCAS）次世代ワークショップ（大阪大学 GLOCOL 国際協力・グローバル共生採択課題）との共催で開催できたことは、より開かれた学術成果の発表となっただけでなく、学術的交流という意味でも特筆すべき成果となった。

そして、これらの研究活動の成果を踏まえつつ、次年度以降に公表予定の学術論文の執筆準備を進めた。また、リーマン・ショック後の全国のカトリック教会による在日外国人支援の展開を、おもにメディア報道の分析

から明らかにした論文(論集掲載)(後掲の図書)も公刊した。

なお、当初の平成24年度の研究計画では、カトリック教会以外のキリスト教系の諸組織や、外国人信者を多く抱える諸々の新宗教教団についても幅広く調査対象にする予定であったが、実際に研究を進めていくうちに現代の日本において、ニューカマーの在日外国人支援を圧倒的な広範さで展開しているのはカトリック教会であることが判明していったため、カトリック教会への調査を集中的に実施することとした。その結果、カトリック教会関連の組織や事業については、当初の計画以上の膨大な資料を収集することができ、次年度以降の研究の基礎となるデータを蓄積できた。また、当初は平成25年度に実施予定であった諸外国における移民と宗教に関する事例研究の検討にも着手することができた。

(2) 2年目(最終年度)

研究計画の最終年度である平成25年度は、前年度に引き続いてカトリック教会を中心とする多文化共生関連の諸組織についての調査(文献調査および訪問調査)を進めていくことにより、現代日本における宗教組織による在日外国人支援の意義とその課題について明らかにしていった。そこではとくに行政や世俗の一般的な民間組織とは異なるかたち、もしくはそれらで提供されている支援からはこぼれ落ちがちな在日外国人のセーフティネットとして、宗教組織がどのように機能しているのかを解明していった。それとともに日本の諸事例と他国との比較考察を行うために、日本で言うところの「多文化共生」に関わる取り組みの先進国でもある諸外国の動向を先行研究の成果を通じて把握することで国際比較研究の第一歩とした。また、前年度から継続して日本各地において現地調査を進めていくとともに、研究成果の公表も精力的に行った。

現地調査としては、静岡県浜松市を中心に兵庫県神戸市、大阪府八尾市、首都圏などのニューカマーの外国人、とくにインドシナ難民(ベトナム人が多い)として来日した人びとの集住地域において、彼ら/彼女らの来日と定住の過程における宗教の関与のあり方についてフィールドワークを行った。また、広く「移民と宗教」に関わる文献の収集も進めた。その結果、ニューカマーたちの来日と定住化の過程において宗教が大きな役割を果たしており、宗教組織がニューカマーたちのあいだの互助の場であるだけでなく、信仰を共有する日本住民との結節点にもなってきた点が明らかになった。とくに後者の知見は、これまでの研究ではほとんど注目されて来なかった問題であり、本研究の貴重な成果であるといえる。

また、研究成果の公表に関しては、研究代表者が世話人代表を務めている「宗教と社

会」学会公認「現代社会における移民と宗教」プロジェクトの研究会とも協力して進めていった。口頭発表としては、「宗教と社会貢献」研究会(7月、研究代表者の発表題目:「宗教組織によるインドシナ難民受入事業の展開 立正佼成会を中心に」)、日本移民学会2013年ワークショップ、The Asian Studies Association of Hong Kong (ASAHK) 9th Conference といった場で研究成果を発表し(後掲の学会発表、)その成果の一部を論文のかたちでまとめた(後掲の雑誌論文)。

(3) 今後の研究計画

今後も以下の研究テーマを設定して、本研究課題の内容をさらに進展させていく計画である。

戦後日本のカトリックによる在日外国人支援の全貌の解明

インドシナ難民の来日および定住化における宗教組織(カトリック、立正佼成会、天理教など)の関わり方の比較研究

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

高橋典史,「宗教組織によるインドシナ難民支援事業の展開 立正佼成会を事例に」、『宗教と社会貢献』,査読有り,4巻1号,2014年,1-25ページ。

〔学会発表〕(計3件)

高橋典史,(日本語)「日本社会における宗教の特徴」,The Asian Studies Association of Hong Kong (ASAHK) 9th Conference,2014年3月14日,香港大学百周年校園。

高橋典史,(招待講演)「20世紀前半のハワイ日系諸宗教にみる日本人移民の死生観」,日本移民学会2013年ワークショップ2013年8月25日,兵庫県学校厚生会館。

高橋典史,「現代日本の宗教組織による滞日外国人支援の展開」,第85回日本社会学会大会,2012年11月3日,札幌学院大学。

〔図書〕(計3件)

高橋典史,ハーベスト社,『移民、宗教、故国 近現代ハワイにおける日系宗教の経験』,2014年,291ページ。

高橋典史,丸善出版,(項目執筆)「日系宗教の在日日系人への対応の現状」,吉原和男編集代表『人の移動事典 日本からアジアへ・アジアから日本へ』,2013年,512ページ(執筆範囲担当頁280-281ページ)

高橋典史,慶應義塾大学出版会,(分担執筆)「外国人支援から見る現代日本の「移民と宗教」 在日ブラジル人とキリスト教会を中心として」,吉原和男編著『現代における人の国際移動』,2013年,488ページ(執

筆担当範囲 437-456 ページ).

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

・「宗教と社会」学会公認プロジェクト「現代社会における移民と宗教」プロジェクト

<http://iminsyukyo.blog.shinobi.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 典史 (TAKAHASHI, Norihito)

東洋大学・社会学部・准教授

研究者番号: 5 0 6 3 3 5 1 7

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし